

「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統（スイートコーン）」に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集結果について（案）

1. 実施期間 平成26年1月8日～平成26年2月6日

2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送

3. 提出状況 830通

4. 意見・情報の概要及び食品安全委員会の回答
（目次）

A：食品健康影響評価結果の内容全般.....	3
①アレルギー誘発性、構成成分等の評価項目について.....	3
②第三者機関による検証等について.....	6
③長期試験・毒性試験等について.....	7
④その他審査・承認について.....	8
⑤その他の健康影響等に関する情報について.....	10
B：飼料の安全性.....	14
C：パブリックコメント・情報提供.....	15
D：その他（リスク管理を含む）.....	16

○ いただいた御意見・情報に関する回答は、3 ページ以降です。

○ 食品安全委員会は、国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下、規制や指導等のリスク管理を行う関係行政機関から独立して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正に、食品に含まれる可能性のある危害要因が人の健康に与える影響についてリスク評価を行っています。

○ 遺伝子組換え食品等専門調査会では、科学的知見に基づき中立公正に遺伝子組換え食品等の安全性評価を行っています。今般、リスク管理機関から評価要請があった「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統（スイートコーン）」の食品としての安全性について、「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に基づき評価を行いました。

○ 今回、意見・情報の募集を行ったのは、遺伝子組換え食品等専門調査会で審議を行った「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統（スイートコーン）」に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についてです。

○ 食品安全委員会で行う遺伝子組換え食品等の健康影響評価においては、環境影響、生物多様性、生産、輸入、表示、企業活動等に関する事項は審議の対象としていません。

遺伝子組換え作物の環境へ与える影響の評価については、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」(カルタヘナ法)に基づき、農林水産省及び環境省において実施されています。

食品中に残留する農薬のリスク管理については、食品衛生法に基づき厚生労働省において実施されています。

また、遺伝子組換え食品の表示に関しては消費者庁が担当しており、飼料としての家畜に対する安全性の確保は、農林水産省が担当しています。

これらのリスク管理に関する意見・情報は関係機関にお伝えします。

- なお、いただいた意見・情報については、内容により分割を行い、事項ごとにまとめていますが、マスキング部分を除き原文のまま記載しています。

A：食品健康影響評価結果の内容全般

①アレルギー誘発性、構成成分等の評価項目について

	意見・情報の概要
1	<p>○殺虫性タンパク質、フィチン酸及びラフィノースの定量限界未満の根拠と生体への安全性の根拠が不透明</p> <p>○自然の理に反する殺虫性タンパク(毒素)を生じるのであれば、人体も然るべき悪影響が当然と予測。統計学的有意差、定量限界未満などは生体的根拠性の裏付けに欠けると予想。特にアミノ酸、生理活性物質。なおヒスチジンのアミノ酸は体内酵素で分解されるとヒスタミンというアレルギー誘発物質に変質する</p>
2	<p>世間をこれだけ騒がせている様々なアレルギーの原因の一つに考えられる遺伝子操作された食べ物を「怖い」と考える一人です。</p> <p>現段階でアレルギーを誘発するおそれは無いとしても、それは将来にわたって100%無いと言いきれますか？</p> <p>世の中にアナフィラキシーショックで亡くなる子どもが増えているのに、遺伝子操作された食べ物を増やすべきではないのではないのでしょうか？</p>
3	<p>分析結果ばかりを評価しているが、そもそも分析によって安全性が評価できるわけではない。経験値なしに安全性が判断できる道理がない</p>
4	<p>委員はコーンの重量を測るとか、すりつぶす、分析機械にかけるとかの実測はしていない。</p> <p>宿主由来の食品の構成成分の項目について 各組成、小のパーセント合計が102, 4% (大の合計は122, 4%) この他にミネラルもあるので100%を超えるのは理解できない。</p> <p>挿入 DNA 遺伝子産物、並びにベクターの構築に関する事項は、ほとんど「安全性に関する知見は得られている」と書いている。具体的科学的実際的根拠の明示がない。実験動物に何か月間、何グラム食べさせたか 等</p> <hr/> <p>遺伝子産物のアレルギー誘発性に関する事項。</p> <p>加熱処理感受性、温度は100度または100度以上でしっかり加熱すべきである。種々のタンパク質の加熱による免疫反応性の変化は不安定であるとのことだがアレルギー素質のある人に悪い影響が有るかも知れないとの意味ですか。容認できません。</p>
5	<p>遺伝子組み換えスイートコーン承認に反対します。まず、まだ分かっていないことが多すぎる。PDF を読む限り～に健康を害することはないとばかり羅列されていて、データ自体が全く開示されておらず危険性を回避するような安全性を満たすには十分ではない。</p>
6	<p>I.評価対象食品の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・判断されている。 <p>3.有害生理活性物質の生産に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・有害と考えられるレベルの有害生理活性物質の産生性は知られていない。 <p>いずれの表現も断定的なものでなくあくまで推測の域であり、確定できない情報があります。</p>

	<p>既に情報も届けられていると思いますが「フランスで行われた実験では、遺伝子組み換え食品を食べ続けたマウスの体が癌まみれになったのが確認されました」と報告があります。</p> <p>安全性の100%確証できず、更に動物実験での発ガン性が報告されているものを安全と評価するとは委員会お一人お一人の姿勢に疑問があります。</p> <p>専門調査会は安全の確証できない食品を禁止し国民の命を守る為の機関ではないでしょうか。</p>
7	<p>このまま GMO ご野放しに増えていけば、これからまた新たなアレルギーなどが増えるであろうことは用意に推察できるでしょう。</p> <p style="text-align: right;">同趣旨他 1 件</p>

(食品安全委員会の回答)

- 評価を行った「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統 (スイートコーン)」(以下「MON89034 (スイートコーン)」という。)は、既に安全性評価が終了しているデント種であるチョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON89034 系統 (以下「MON89034 (デントコーン)」という。)と従来品種のスイートコーンを従来の手法で掛け合わせて得られたものです。MON89034 (デントコーン)については、既に安全性評価が終了しており、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断されています。
- そのため、MON89034 (スイートコーン)の挿入 DNA、遺伝子産物 (タンパク質)、ベクターの構築に関する事項等については、MON89034 (デントコーン)において既に評価されており、安全性に関する知見は得られています。
- MON89034 (スイートコーン)については、「遺伝子組換え食品 (種子植物)の安全性評価基準」* (平成 16 年 1 月 29 日食品安全委員会決定。以下「評価基準」という。)に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断しました。
- * http://www.fsc.go.jp/senmon/idensi/gm_kijun.pdf
- アレルギー誘発性については、MON89034 (デントコーン)の遺伝子産物のアレルギー誘発性に関する事項に変化を生じておらず、その安全性に関する知見は得られていると考えます。また、MON89034 (デントコーン)と異なり、生又は熱湯で茹でて食されることから、95℃及びそれ以下の温度で加熱処理を行い免疫反応性を検討しています。これらの結果から、アレルギー誘発性を示唆するデータがないことを確認しています。
- MON89034 (スイートコーン)については、評価書案に記載のとおり、主要構成成分、ヒスチジンを含むアミノ酸組成、脂肪酸組成、ミネラル、ビタミン類及びフィチン酸・ラフィノースを含む有害生理活性物質の分析を行い、宿主である非組換えスイートコーンと比較がされています。その結果、統計学的有意差がないか有意差が認められた場合であっても一般の商用スイートコーンの分析値の範囲内でした。

- 申請者から提出される申請資料については、申請者の知的財産等に係る部分を除き、食品安全委員会で閲覧が可能となっています。

- 御指摘（4番の前半）の宿主由来の食品の構成成分の項目については、評価書案に記載のとおり、OECDの文書を引用したものです。それによると、いくつかの文献値による組成の範囲の数値として示されていることから、合計が100%にはなっていません。

②第三者機関による検証等について

	意見・情報の概要
8	○安全性評価を行っているのは開発企業であり、客観的評価ではない。 同趣旨 51 件
9	申請者提出の資料を用いて食品健康影響評価を実施しているだけ、ということに不安を覚えます。 国内の国立、民間、いくつかの施設にて、盲検化した状態で安全性検査をしていただき、その結果を評価していただきたいものです。 申請者のデータの正当性に、そもそも何ら疑問を持たない時点で、単なる書類審査に過ぎないことなる、と思います。時間と税金を費やして、国民に対して安全です、というのは無意味な審議結果と考えます。
	その他の第三者機関の検証等に関する意見 12 件

(食品安全委員会の回答)

- MON89034 (スイートコーン) については、「評価基準」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断しました。
- 遺伝子組換え食品等専門調査会においては、申請者が実施した試験等のデータについて、その実施方法や分析方法の妥当性を含め科学的見地から審議を行っています。また、審議において必要な資料が不足していると判断された場合は、さらに必要な追加資料の提出を求めています。
- なお、遺伝子組換え食品等専門調査会の専門委員は、大学教授や国立研究機関の研究者等から構成されており、科学的知見に基づき中立公正に遺伝子組換え食品の安全性評価を行っています。

③長期試験・毒性試験等について

	意見・情報の概要
10	<p>○ごく簡単な評価で、動物実験を行っての評価ではない。今回のように生で食べる可能性が大きな食品の場合は、人体実験の前に動物実験を行うべきである。</p> <p>○GM技術を用いると、どのような予期しない問題が生じるか分からない。予測可能な毒性の評価だけでなく、予測できない未知の毒性への対応が必要である。</p> <p style="text-align: right;">同趣旨他 47件</p>
11	<p>遺伝子組み換え食品について長期的な調査による安全性の検証が充分になされていないとは思えない。</p>
12	<p>メーカーの申請に長期の動物実験（マウスの一生を見るなど）がないことにも疑問を持ちます。</p>
	<p>その他長期試験・毒性試験等に関する意見 15件</p>

（食品安全委員会の回答）

- MON89034（スイートコーン）については、「評価基準」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断しました。
- 急性毒性、慢性毒性試験等については、「評価基準」において、安全性に係る知見が得られていない場合に必要とされており、MON89034（スイートコーン）はその必要がないと判断されたものです。
- 遺伝子組換え食品については、これまで経験上安全に食されてきた既存の食品と比較が可能なものについて、導入遺伝子により生じた形質の変化に着目し、安全性評価を行うことが、国際的にも認められています。その理由は、組換え体において新たに变化した形質以外の性質については、既にその安全性が広く受け入れられており、改めて考慮する必要がないか、又は、その安全性の評価を行う上で必要とされる知見等の蓄積が十分になされていると考えられるためです。

④その他審査・承認について

	意見・情報の概要
13	「EU で安全性審査が終了」とありますが EU での反対が根強く MON88017 (2008 年 4 月)、MON89034 × NK603 (2009 年 6 月) ともに EU では認可申請を撤回されていますが、それを日本に持ち込むつもりですか？
14	世代を超えた影響を無視して、アメリカで十年以上食べて大丈夫らしいから日本でも OK というのは、リスク評価としては甘すぎます。人は風土に順応して、分解酵素にも人種差・民族差があるのに、それも無視している点、今回のパブコメ募集は非科学的な態度です。
15	遺伝子組み換えコーン飼料用を 2 人の若者が栽培してみた米映画「ビッグコーン」を見ました。収穫時に生のまま食べてあまりに不味くて吐き出していました。今回のデント種と従来品種のスイート種の交配で食味、安全性の点等で人間の食用として使用可能なものか疑問と不安をかんじます。青虫が食べないまたは死ぬのは人間に安全とはとても思えません。
16	審議では、該当の MON89034 系統 (スイートコーン) の安全性については検討されて入るが、既存の栽培品種の全てについての交雑した場合についての安全性が検討されていない。 在来品種を近隣で栽培されることは当然に起こりうることであり、それが市場に出回る可能性が有る。第三者機関に依って、交雑した物が安全であることが確認された上で認可されたい。
17	○除草剤耐性作物の場合は、GM作物と除草剤との相加・相乗効果を評価すべきである。 ○GM作物同士の相加・相乗作用も評価すべきである。
	同趣旨他 47 件
	その他審査・承認に関する意見 24 件

(食品安全委員会の回答)

- MON89034 (スイートコーン) については、「評価基準」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断しました。
- 米国では米国食品医薬品庁 (FDA) による食品及び飼料としての安全性の確認は、2007 年 8 月に終了しています。また、EU では、欧州食品安全機関 (EFSA) による食品及び飼料としての安全性の確認は、2009 年 10 月に終了しており、許可申請が撤回されたという情報は把握しておりません。
- 本品種と従来品種との掛け合わせ品種については、「遺伝子組換え植物の安全性評価の考え方」(平成 16 年 1 月 29 日 食品安全委員会決定) に示しているように、亜種レベル以上での交配によって得られた植物、亜種レベル以上の交配ではないが、摂取量・食用部位・加工法等に変更がある場合は、安全性の確

認が必要としています。

なお、本品種は、除草剤耐性が付与された系統ではありません。

⑤その他の健康影響等に関する情報について

	意見・情報の概要	
18	<p>遺伝子組み換え作物(スイートコーン)の承認に反対である。フランスの2年間のラット実験で死亡率、腫瘍発症率の異常な高さが出ている。最近になってその論文が却下されたようだが、逆に追跡実験をするべきであろう。同じ実験をGM開発企業ではない公平な第三機関で、多数のラットで行ない公表すべきだ。なぜGM作物が開発されてから一度もそのような実験が行なわれないのか、逆に不信感がある。開発企業の安全審査をそのまま鵜呑みにする日本政府の承認には疑問だ。</p>	
19	<p>同社は組み替え作物の安全性を訴えてきましたが、フランス、カーン大学のセラリーニ教授は「Food and Chemical Toxicology誌」に「Long term toxicity of a Roundup herbicide and a Roundup-tolerant genetically modified maize (ラウンドアップ除草剤並びにラウンドアップ耐性遺伝子組み換えトウモロコシの長期毒性)」と題した論文を発表しています。この研究では2年間にわたり、マウスに遺伝子組み換え食品を与え続けた結果、5～8割のマウスに腫瘍が形成されたという研究結果が得られています。</p>	
	<p>またカナダの大学病院の2011年の報告では妊娠した女性の93%、80%の胎児から遺伝子組み換え作物由来の殺虫毒素(Cry1Ab)が見つかったとされています。これらの毒素は人体に取り込まれると腸へたどり着くまでに分解されると主張していましたがこの結果からはヒトの消化器では完全に分解されず人体に吸収、蓄積され、血中から検出されているということになります。また近年では除草剤ラウンドアップに耐性を持つ雑草が増え始めており、さらに強力な除草剤として、ベトナム戦争で使われた枯葉剤の成分の1つである2,4-Dに対応した遺伝子組み換え種子が開発され、今後はラウンドアップと混ぜて使われる可能性が指摘されています。これら残留農薬の危険性なども考慮すると遺伝子組み換えトウモロコシの規制緩和は時期尚早であり、少なくともフランスのチームが行ったような長期的な毒性に関する安全試験を行うべきだと考えます。pdfを拝見したところ「安全性評価基準に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはない」と判断されたようですが、もしそうならば安全性評価基準自体を見直すべきであると考えます。</p>	
	その他フランス・カナダでの研究に対する意見	51件

(食品安全委員会の回答)

- お寄せいただいた情報は、MON89034 (スイートコーン) に関するものではありません。

なお、御指摘のフランスでの研究については、平成24年11月に食品安全委員会で検討を行いました。その結果、ラットを用いた2年間の長期毒性試験に関する

当該論文の試験内容は、試験に用いたトウモロコシ（NK603系統）がヒトの健康に悪影響を及ぼすかを判断するために必要とされる、基本的な試験デザインを欠いており、結論を導くには不十分であるとの見解^{※2}を示しています。

その理由は、主に次の2点です。

- ①発がん性があると判断するためには少なくとも1群50匹で試験を行うことが国際機関で定められていますが、この実験では各群のラットの数が10匹であること
- ②遺伝子組換えトウモロコシでない餌を与えたラットが1群しか用意されていないため、群間での比較ができないこと

具体的には、著者らは、長期飼育で下垂体及び乳腺腫瘍が発生しやすい系統のラット（Sprague - Dawley 系）を用いて2年間（ほぼ一生）の実験を行ったため、遺伝子組換えトウモロコシでない餌を与えたラットでもがん発生及び死亡が認められています。また、各群のラットが10匹しかいないため、途中でがんなどの病気になったり、死んでしまったりした原因がトウモロコシNK603を含む餌によるものかどうかわかってなくなっています。

また、この実験では11%、22%、33%の割合でトウモロコシNK603を含む餌をラットに与えています（3群）、遺伝子組換えでないトウモロコシを与えたラットは1群（33%）しかありません。そのため、それぞれ同じ割合のトウモロコシを与えた群同士を比べることができないので、トウモロコシNK603の影響かどうかわかってなくなっています。

※2

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kai20121112sfc&fileId=540>

また、欧州食品安全機関（EFSA）^{※3}等の諸外国の評価機関においても同様の見解が公表されています。

※3 <http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/121128.htm>

- 御指摘のカナダの研究については、MON89034（スイートコーン）に関するものではありません。この論文の実験方法（ELISA法）によるCry1Abタンパク質の検出感度や特異性が高いとは必ずしも言えないことから、検出されたタンパク質がCry1Abタンパク質であると特定することはできません。また、この論文の結果からは、遺伝子組換え食品由来のBtタンパク質（Cry1Abタンパク質）が血液に移行した、又は遺伝子組換え飼料に含まれるBtタンパク質が肉、牛乳、血液等に移行し、さらにそれらを食したヒトの血液に移行したと結論することはできません。

また、オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関（FSANZ）から、この研究の問題点を指摘する見解が公表されています。

<http://www.foodstandards.gov.au/consumer/gmfood/crylab/Pages/default.aspx>

害虫に対して殺虫活性を持つBtタンパク質は、ヒトが食べた場合、胃腸で消化されます。また、このタンパク質の受容体はヒトには存在せず、昆虫のみに存在することから、ヒトが食べた場合に影響はないと考えられます。なお、Btタンパク質は微生物農薬として、農作物の生産において古くから使用されています。

	意見・情報の概要
20	<p>★ロシア医科学アカデミー栄養学研究所によるGM（遺伝子組み換え）ポテトを用いた実験で、ラットの臓器や組織に損傷が見られた。1998年発表。★カナダ、オンタリオ州のグエルフ大学の研究者が行ったGMトウモロコシを用いた実験で、ニワトリの死亡率が高くなり、成長もバラバラになった。2003年発表。★モンサントが以前行ったGMトウモロコシを用いたラットでの実験をフランスの統計専門家が再評価したところ、体重ではオスが低下、メスが増加、肝臓と腎臓、骨髄細胞も悪影響が見られた。（2007年発表）★イタリア食品研究所のE・メンゲリらが行ったGMトウモロコシを用いたマウスの実験で、免疫系に異常が見られた。（2008年発表）★S・クロスボラによるGM米を用いたラットでの実験で、免疫系に異常が見られた。（2008年発表）★M・マラテスタらが行ったGM大豆を用いたマウスでの実験で肝臓と腎臓などの内臓に障害が見られた。（2008年発表）★A・キリックらによるGMトウモロコシを3世代にわたりラットに投与した実験で、肝臓と腎臓などの内臓に障害が見られた。（2008年発表）</p>
21	<p>マウスでも、遺伝子操作のビッグコーンを900日食べさせた個体が、体に巨大な腫瘍を作っているのを知っています。マウスと人は違いますが、マウスが食べれないものを人が食べても絶対に大丈夫とはいえないと思うのです。</p>
22	<p>発ガンの可能性あり。（キングコーンを摂取したマウスの試験より）</p>
23	<p>これは MIR162 トウモロコシであり虫が食べると死んでしまうものです カナダでは人間の肺細胞を破壊してしまうことが発表されてます</p>
24	<p>遺伝子組み換えトウモロコシの安全性は EU ではラットの実験等で癌や腫瘍が発生して「極めて危険なトウモロコシ」という結果が出ています。</p>
25	<p>諸外国の研究機関においても、遺伝子組み換え食品によるマウス実験で、発がん性があるとの結果が出ています。</p>
26	<p>ヨーロッパの文献では、発がん性が認められています。</p>
27	<p>遺伝子組み換え食品については、不妊やがんへの影響も指摘されています。</p>
28	<p>知らずに摂取している遺伝子組換のトウモロコシと大豆。 健康被害が立証されたレポートも出ています。</p>
29	<p>遺伝子組み換えを行った飼料を5か月与え続けたマウスが癌を発症したという研究例も報告されています。</p>
30	<p>現在、GMO 花粉の自然受粉によって奇形になった作物が報告されている状態で、どんなに実験で安全だと報告されても、本当に人体に安全だとはまったく言えないと思います。</p>
31	<p>遺伝子組み換えの食物は健康被害が懸念されるので承認しないで下さい。 トウモロコシの有害性を示す研究3つ。家畜の不妊から遺伝子組み換えが原因では、と考えられてきましたが、それを裏付ける精子に影響。男性の不妊にとあります。</p>

	英語ですが下記のホームページに記事があります。 http://sustainablepulse.com/2014/01/15/gm-bt-corn-causes-infertility-rats-new-egyptian-studies/#.UtsRAR-AaG8 ...
32	遺伝子組換え食品は調査機関によって結果の出方が様々で、堤未果さんの著書「貧困大国アメリカ」では長期間マウスに摂取させた結果異常が出た個体も発見されたと書いてありました。人体への影響もわからないのに、流通させることに反対します。
	その他遺伝子組換え食品の健康影響の情報に対する意見 14件

(食品安全委員会の回答)

- いただいた御意見20の★の3つ目にあたる、2007年に発表されたフランスでの研究については、食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会では、平成22年にこの研究について検討を行いました。その結果、試験が行われた3種のトウモロコシについて、ヒトの健康に悪影響を及ぼすことを示す新たな懸念はないと考えられるとした見解を公表しました。また、これらのトウモロコシの摂取が血液、肝臓及び腎臓に対する毒性を示すことを示唆する新しい証拠を提示しているとは言えないと結論付けました。(除草剤グリホサート耐性トウモロコシNK603系統、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシMON810系統及びコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMON863系統の90日間反復投与毒性試験で得られたデータの解析に係る見解について(平成22年2月16日府食第102号)※)
- ※ <http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20100218sfc>
(資料7)
- そのほかの意見・情報につきましては、その詳細が確認できないため事実関係が把握できませんが、今後とも情報収集に努めていきたいと考えています。情報等については、文献等出典についても併せてお知らせいただければ幸いです。なお、これまで食品健康影響評価を行った遺伝子組換え食品等について、現時点においてそれらの評価結果に影響を与える新たな科学的知見は得られていません。

B：飼料の安全性

	意見・情報の概要	
33	飼料などに使われるとしても、それを食べた豚などを人間が食べることとなります。	
34	マウスの3週間の実験でさえ、健康被害が出ているのに、たとえそれが家畜用とか人間以外の食べ物だとしても必ず私たちにしっぺ返しがかかります。	
	その他飼料の安全性に関する意見	5件

(食品安全委員会の回答)

- 遺伝子組換え作物を飼料として用いた動物の飼養試験において、挿入された遺伝子又は当該遺伝子によって産生されるタンパク質が畜産物に移行することはこれまで報告されていません。

- なお、飼料としての家畜に対する安全性の確保は、農林水産省が担当しています。リスク管理に関する御意見は、関係機関にお伝えします。

C：パブリックコメント・情報提供について

	意見・情報の概要
35	パブリック・コメントが形骸化しており、一度も聞き入れないという事態がつづいている。手続きとして単に聞いて置くという姿勢は、実質的なリスクコミュニケーションではなく、国民の健康を危険に曝すものだ。抜本的な改正を求める。 同趣旨他 39 件
36	この「パブリックコメントは根拠法がありません。だから国会の通過手続きをする権限を持ちません。」 根拠法がない「任意の意見公募」は国会に通す権限を持たない！」
37	一部では発癌性すら指摘されているような、安全性の不確かな遺伝子組み換え食品を流通させることに強い懸念を抱いております。マスメディアを通じて、広く国民に知らせ、十分な審議をしていただきたいです。
	その他パブリックコメント・情報提供に関する意見 10 件

(食品安全委員会の回答)

- 意見・情報の募集（パブリックコメント）は、専門調査会で審議した評価書（案）について、国民の皆様から科学的な内容に関する意見・情報を収集し、必要に応じて、最終的な評価結果に反映させるために行っているものです。また、報道機関等にも公表しています。食品安全委員会では、遺伝子組換え食品の安全性に関する理解を深めるため、意見交換会の開催やホームページにおける情報提供等を行っています。今後とも、適切にパブリックコメントや情報提供を行っていきたいと考えています。
- 遺伝子組換え食品等専門調査会では、科学的知見に基づき中立公正に遺伝子組換え食品等の安全性評価を行っています。食品安全委員会では、これまでの10年間で180件を超える遺伝子組換え食品等の食品健康影響評価を行っていますが、現時点においてそれらの評価結果に影響を与える新たな科学的知見は得られていません。
- 遺伝子組換え食品の流通等に関する御意見は、リスク管理機関である厚生労働省にお伝えします。

D：その他（リスク管理を含む）

意見・情報の概要	
農薬の使用等に関する意見	9件
環境影響、生物多様性に関する意見	18件
農業に与える影響に関する意見	10件
表示に関する意見	16件
遺伝子組換え食品一般に反対する意見	825件
申請者の企業活動に関する意見	11件
その他の意見・情報	5件

* 件数は延べ件数

（食品安全委員会の回答）

- 食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会では、遺伝子組換え食品の安全性評価を担当しています。
- 食品安全委員会で行う遺伝子組換え食品等の健康影響評価においては、環境影響、生物多様性、生産、輸入、表示、企業活動等に関する事項は審議の対象としていません。
 遺伝子組換え作物の環境へ与える影響の評価については、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」（カルタヘナ法）に基づき、農林水産省及び環境省において実施されています。
 食品中に残留する農薬のリスク管理については、食品衛生法に基づき厚生労働省において実施されています。なお、MON89034（スイートコーン）は、農薬に耐性を示すものではありません。
 遺伝子組換え食品の表示に関しては、消費者庁が担当しています。
- リスク管理に関する意見・情報は関係機関にお伝えします。